

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1170900359		
法人名	株式会社サンセット・シニアーズ		
事業所名	グループホームれんげ荘		
所在地	埼玉県久喜市久喜東2-35-5 M&Mビル2F		
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成31年2月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成14年4月開設。平成23年4月1日より、前住所地より徒歩3分のところのM&Mビルに移転。小規模多機能型居宅介護事業所併設。また、同ビルは外壁はもとより、全館(壁・床・天井)に抗菌・抗カビ・防臭・防汚に優れたGEOTECT(ジオテクト・SIAAマーク取得)により、処理されており、感染症予防・衛生管理に優れた施設となっています。15年の経験と在籍期間の長い職員も多く、家庭的な雰囲気の中、ご利用者様も穏やかに過ごされています。地域の方々との交流も徐々に増えており、さらに連携を深め、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援していきたいと思っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

●運営推進会議は区長、民生委員等の方々を招いており、利用者も全員参加しています。ホームの状態や実情を理解してもらい、様々な意見をもらいながら運営の参考とするよう努めています。  
 ●法人他事業所とのクリスマス会、運動会は毎年恒例となっており、職員・利用者の楽しみの一つとなっています。催し物など職員の創意と工夫が施されており、利用者に楽しんでもらいたいと願う愛情を理解することができます。  
 ●職員のミーティング時には利用者の1ヶ月の出来事を中心に話し合いを進めています。利用者との会話内容についても議題にあげるなど緻密な観察に本ホームの細やかな配慮と気配りを感じることが出来ます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を踏まえて、運営理念を朝の申し送り時やミーティングなどにも唱和して職員間で理念の共有を図りながら実践につなげている。、	理念・目標を掲示し、法人とホームの方針を周知している。勤続が長い職員が多いことから、メリットを活かしつつもマンネリ化をしないよう留意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の納涼祭や市の七夕祭り、提灯祭りなどに参加。山車の担ぎ手の方たちに冷たいタオル、飲物を提供したりして見学させていただきながら交流を図っている。	自治会の防災訓練に参加するなど地域との連携を図っている。昨年はできなかった中学生の職場体験の受け入れについては、ホームより声を掛け、実施をする意向をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生生の体験学習を受け入れている。介護現場の実際にご利用者様と交流し、高齢者や認知症の理解の一助となる協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加する地域の人や民生委員さんからの情報で地域の行事を紹介頂いたりしている。また運動会には幼稚園の園児の演技の発表があり園児の父兄さんたちとも交流がある。	区長、民生委員の他利用者が全員参加して開催されている。地域の方々へ理解を深めてもらう機会として捉え、情報発信にあたっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月1回の地域運営推進の介護福祉課、地域包括支援センターさんの担当者さんの参加をいただきながら会議の席で事業所の取り組みを伝えながら協力関係を築いている。	窓口に出向き、様々な情報を得ている。介護ロボットの導入など最新の情報をもらい、運営の参考としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護・虐待防止委員会を設置して取り組んでいる。「身体拘束排除に取り組む」理念を掲示し職員間でミーティングを行いながら日々のケアに振り返りを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「適切なケアがなされているか」日々の振り返りを重視しており、利用者の権利を養護するよう取り組んでいる。委員会、ミーティングを通して正しい知識が身につくよう指導にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護・虐待防止委員(民間の有識者11名)を委員として取り組んでいる。職員の心理カウンセリング(臨床心理士)を設けている。また定期的に研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のパンフレットや研修に参加しながら事業所にて権利擁護について勉強会を行った。職員一人ひとりが周知して学ぶ機会を設け活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学していただき説明を行い十分に理解して頂き、同意を得たうえで署名捺印をいただき契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来ていただいた時にも家族の要望や意見を伺い取り入れている。運営新進会議においても意見や要望を聞く機会を設けそれらを運営に反映している。	面会時等コミュニケーションを図っているものの、家族からの要望が減少していることを認識している。更に日々の状況説明に努め、利用者の状態の理解を深めてもらいながら意見を聴取していく意向をもっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の議案書にて提案を行いアドバイスをいただいている。職員が代表者に意見を聞く機会があり、そこでの意見を検討していただき反映している。	職員のミーティング時には利用者の1ヶ月の出来事を中心に話し合いを進めている。利用者との会話内容についても議題にあげ、検討対象としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社合同のイベントでは従業員の活躍の場面を設けていただき各事業所の実行委員で企画・運営されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域で実施されている外部の研修に参加したり、初任者研修を受講するためのシフト上の便宜を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム杉戸との意見交換を行ったり、従業員全体会議では困難事例についての他の従業員の意見を聞く、またはレクのアイデアなども参考にする場面があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の好みや習慣などを取り入れ、家族の協力のもと使いなれた家具や小物を持ち寄っていただき環境変化によるダメージを最小限に努めている。不安のないように丁寧な声かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設のことを理解いただくためにも丁寧な説明を行い十分に納得いただけるように取り組んでいる。不安のないように利用者様の様子を電話で連絡したり、面会に来ていただけるように配慮したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時必要なサービスの支援を見極め、他のサービス利用が必要な時は他のサービスにつなげる支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の能力にあったことへの支援を行っている。活躍の場面づくりや助け合いの場面づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に住む家族様にも電話で連絡して状況を報告し、意向の確認や、行きたいところの支援をお願いしたり通院の付き添いをお願いしたり無理のない範囲で行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた美容院への外出、なじみの店の買い物、通院の支援に努めている。	生活の中で「馴染みとして」位置づけられる公園、商店など行きつけの場所がある。また法人内の他事業所とは運動会、クリスマス会などを合同で楽しむ間柄となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席順や助け合いの場面づくりを職員は日々支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方にも年賀状や暑中見舞いの毎年を送っている。退去された家族の方が立ち寄り、退去後の様子などについて知らせてくれた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活の支援に努め個別ケアを可能な限り実践できるように取り組んでいる。表情や会話の中からも元気な時の好みや習慣を取り入れて日々のケアに取り組んでいる。	利用者の行動や暮らしを把握していなければ意向を把握することは困難であることを認識しており、日常の会話、ケアプラン作成時の聴取等に努めている。	利用者とのコミュニケーションにあたり、スキンシップの重要性を認識しており、利用者の心の中に入るアプローチを全職員が実践できるよう取り組む意向をもっている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や今までのサービスの関係者、かかりつけ医の情報や主治医意見書など情報収集に努め、自宅での様子も含めてアセスメントを行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員は介護記録を丁寧に記録を行い申し送りにて情報を共有して全職員が継続しながら把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師、計画作成担当者、介護職員と話し合い意見やアイデアを反映している。	モニタリング結果、サービス担当者会議による話し合い等を基にケアプランの策定がなされている。食事・排せつの自立、日常の楽しみ等を目標に盛り込むよう意識した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日々の様子、ケアの実践を個別記録に記入して情報の共有に努めている。定期的にその評価、計画の見直しが行われている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病院に付き添えない場合は介護タクシーと連絡調整し、受診に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議にて区長さんや民生委員の方々からの情報、協力により地域行事に(夏祭り、防災訓練など)参加させていただき、防災、防犯などの情報もいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が家族と一緒に通院に同行し、医師に情報提供を行ったり、手紙に書いて家族に伝えていただき家族より医師からの指示を伝えていただいたりして連携に努めている。	ホームと家族が連携し、通院支援がなされている。医療機関と利用者・家族とを繋ぎ、両者の信頼関係を構築することに注力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や看護が受けられるように、看護職員に相談して受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護情報の提供を行い定期的に面会に行き利用者に声かけを行い、SWや看護師・医師・家族と早期退院に向けて相談情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りに関する指針を入居時に確認と説明がなされている。本人、家族の意向や希望を確認しながら、医師・看護師・関係者とともに話し合いをおこない検討し状況に応じていく。	重度化と終末期の支援についてホームの方針を入居時等に説明している。医師・家族等関係者と常に相談をし、利用者にとって最善の支援となるよう検討を図っている。	移乗等介護ロボットの導入に対しては、利用者の慣れを重要視しており、早期の利用開始により安心・安全な使用となることを目標としている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当、初期対応の勉強会を定期的に行い緊急時のマニュアルを整備している。またAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施。昼間想定1回、夜間想定1回避難訓練を実施している。また自治会主催の消防訓練へも参加し地域の方に認識いただきつつある。水害訓練や避難場所までの避難経路の確認が行われた。	定期での避難訓練・AED講習を実施し、万一の事態に備えている。夜間の対応については対策を協議しており、運営推進会議等においても地域の協力を得ながら対応を図っていくことを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格の尊重は当社の運営理念として職員が周知徹底し、人格の尊重、個人情報保護について年間研修計画に基づき研修を行い丁寧な声かけを実践している。	入室時のノック、排せつ介助時のドアのクローズなど利用者のプライバシーに配慮するよう努めている。認知症への理解を深め、利用者の気持ちを受け止められるよう・適切な対応が図れるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や家事などを自己決定できるように声かけを行い、しぐさや表情などからも本人の思いや希望を考慮しながらケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望に沿った、その日の日課をできる限り優先して支援できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みが変化したことを家族に伝えて衣類を用意して頂いたりしている。本人が元気だったころの好みの衣装を職員は周知して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせた食事の準備や片付けを負担のない範囲で協力して頂いている。食事を印象付けるため食事の時はテレビを消す、食事の挨拶を行うようにしている。	食事が待ち遠しく思ってもらえるよう・1日の楽しみとなるよう努めている。またおやつは、利用者の好きなものを聞き、皆で会話をしながら楽しむひとときが提供できるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れて食事を残さずに食べていただけるようにしている。身体状況に合わせた形態や好み習慣を職員は周知し共有しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修や、歯科衛生士さんの指導の下に食事の前の嚥下体操を取り入れ全員が食事の口腔ケアを、能力に合わせて実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握してひとり一人の対応を検討し、本人の状態を見ながら支援している。	利用者一人ひとりの排せつが記録されており、パターンの把握により利用者の能力を活かした排せつとなるよう取り組んでいる。昼夜で対応を変えるなど利用者の状態に応じた個別支援にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の管理や毎日の運動を声掛け、食事のメニューを把握しながら、個々の排泄管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間の設定はあるができるだけ本人の希望に沿って入れることができるように支援している。	利用者の清潔が保持されるよう入浴日の設定、状況に応じた支援がなされている。拒否する利用者に対しては声掛けを工夫し、職員が協力しながら対応にあたっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息や夜間の睡眠パターンに合わせた習慣を実行できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬ができるように、能力に合わせた支援を行っている。服薬管理を行い管理されている。服薬の副作用についても把握し、異常があれば医師に情報提供されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や思考把握しながら喜びや張り合いが持てるように支援している。楽しみとなる声かけや励ましを行いともに喜びや達成感を味わえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿うことができるように、可能な限り支援している。	お花見など行事の際には皆で季節を楽しむよう取り組んでいる。法人他事業所とのクリスマス会、運動会も恒例となっており、職員・利用者の楽しみの一つとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に合わせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室にて電話が受けられる設備がある。年賀状や暑中見舞いなど投函支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を飾るほか、季節に応じた飾り付け(こいのぼり、七夕飾り、おひなさま)をしている。空調の管理、温度管理を行っている。	室内の換気と消毒に気をつけ、感染症が蔓延しないよう衛生環境の保持に努めている。利用者の作品が共有スペース等に飾られ、家庭的で温かなホームの雰囲気を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でお互いの部屋をいききおしゃべりしたり、写真を見せたりしながら思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら自宅で使っていた仏壇や将棋盤などを持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるように援助している。	囲碁、読書、テレビ鑑賞など自由に過ごす居室が各利用者に提供されている。特に夜間はゆったりとのんびりと過ごしてもらえよう配慮に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差がなく、廊下が回廊になっており手すりも設置され歩行練習されている。廊下にある大きな鏡の前で、姿勢を確認できる。ホール中央に洗面台があり手洗い、口腔ケアがなされている。		